

今週のトピック – 2016年2月9日

英インフレ率の下方修正は市場の脆弱性を物語っています。

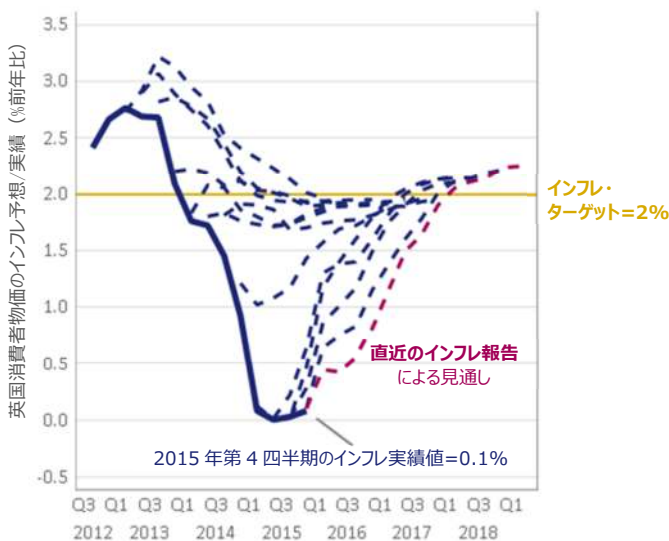
【将来の予測は困難である】

先週の木曜日(2月4日)、イングランド銀行(英中央銀行、BoE)は直近のインフレ報告及びインフレ見通しを発表しました。英国消費者物価の短期見通しは再度下方修正され、インフレ率は今後2年間掛けてBoEが目標とする2%に達するとされました。2013年以降BoEが四半期インフレ報告で発表してきた全てのインフレ見通しにおいて、予測値は結果として実績値を大きく上回る水準となっています。ただし、インフレ予測が毎回実績値を大きく上回り、その後実際にインフレ率が低下したことを受けてインフレ見通しの下方修正を迫られてきた主要中央銀行は、BoEだけではありません。各国の中央銀行が、グローバルのデフレ圧力及びリーマンショックによる金融危機の名残を完全に織り込むことが出来ていない不完全な経済モデルに依存し続けていることが、このように上振れしやすい中央銀行の予測を招いています。



デビッド・ライリー
パートナー兼クレジット戦略ヘッド

図1. 2013年2月以降のイングランド銀行のインフレ予想



出所：イングランド銀行。データは2016年2月4日時点。

見通しの下方修正が意味することは多くの人にとって深刻な問題です。実際と大きく乖離したインフレ見通しによって、金融引き締めや金融緩和のタイミングを誤ったり、目標を下回るインフレへの対応に遅れが生じたりと、政策ミスの可能性が高まる危険があるためです。また政策対応を誤る可能性の高まりが、より不安定な金融市場をもたらした可能性もあります。かつて米メジャーリーグで活躍した野球選手であるヨギ・ベアラの発言を借りれば「特に未来に関しては、予測をするのは難しい」とも言えますが、当局が適切な政策対応を行い、家計や民間セクターそれに投資家がそれぞれ正しい判断をする上で、正確な予測は非常に重要なツールとなります。

ブルーベイ・アセット・マネジメント・インターナショナル・リミテッド
関東財務局長(金商)第1029号
加入協会：一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は受領者への情報提供のみを目的としており、特定の運用商品やサービスの提供、勧誘、推奨を目的としたものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、当社がその正確性、完全性、妥当性を保証するものではありません。記載された内容は、資料作成時点(2016年2月9日)のものであり、今後予告なく変更される可能性があります。過去の実績及びシミュレーション結果は、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。なお、当社による書面による事前の許可なく、本資料およびその一部を複製・転用・ならびに配布することはご遠慮下さい。当社と金融商品取引契約の締結に至る場合には、別途「契約締結前交付書面」等をお渡しますので、当該書面等の内容を十分にお読みいただき、必要に応じて専門家にご相談の上、お客様ご自身のご判断でなさるようお願いいたします。